

朝日新聞

D I G I T A L

10 月は乳がんの早期発見強化月間。和歌山県橋本市岸上の紀和病院は、検診の大切さを伝えようと独自に作ったショッキングピンクのトートバッグとスタッフ用腕章を 5 日に披露した。バッグは「啓発サポーター」に応募した 100 人に配布し、買い物や通学で活用してもらう。

同病院には、乳がんの検診や治療を専門に行う紀和ブレスト（乳腺〈にゅうせん〉）センターがある。2009 年の開設以来、啓発の講演会を開いてきたが、コロナ禍で中断。その代わりに乳がん撲滅のシンボルマークのピンクリボンの入ったマスクをスタッフ用に昨年製作した。今年はピンクリボンと同センターのマーク「チームブレスト」をあしらった色鮮やかなバッグを 200 個と、スタッフ用の腕章も 50 個作った。

スマホや財布などが入るバッグは、啓発サポーターに応募（先着 100 人）すると 1 人 2 個受け取れる。1 個は自分で使い、もう 1 個は啓発したい家族や友人らに渡し、バッグを持って 2 人一緒に撮った写真に「ひとこと」を添えてメールで送る。広報誌などにその写真を掲載（名前など個人情報は非公開）する承諾が必要。応募は直接、同病院健康管理センター（午後 1 ～5 時）で受け付けている。

梅村定司・紀和ブレストセンター長（55）は「コロナ禍でも検診は『不要不急』ではなく不可欠です」と注意を促している。問い合わせは同センター（0736・34・1317）。（福田純也）



乳がん検診の大切さを伝えるピンクリボンのバッグと腕章＝2021 年 10 月 5 日、和歌山県橋本市岸上、福田純也撮影